

東洋大学百年史

通史編II

題字
神作光一

東洋大学百年史

通史編II

凡 例

一 本巻は『東洋大学百年史』（通史編Ⅰ・Ⅱ二巻、部局史編一巻、資料編Ⅰ上下・Ⅱ上下二巻四冊、年表索引編一巻、全六巻八冊）のうちの「通史編Ⅱ」である。

一 本巻は、新制東洋大学の発足から、昭和六二年の創立一〇〇周年までの時期を扱った。

一 通史編は、編・章・節・項からなり、さらに小見出しを付した。

一 表記については、左記の要領を基準とした。

(1) 本文の記述は原則として常用漢字、現代かなづかいを用いた。

(2) 年代は年号を用い、適宜西暦を併記した。

(3) 引用文は原則として引用資料そのままとした。ただし、資料中の漢字は常用漢字にあるものは、それに改め、変体仮名・合せ文字などは通用のものに改めた。資料を本文中に引用するときは「」を用い、長文などの場合には級数を落とし、二字下げて記した。また資料の省略は、原則として中略の場合にのみ「……」として示した。

(4) 虫喰、破損などにより判読できない箇所は□で示し「不明」と傍注した。また疑義のある箇所には「ママ」を付し、あるいは「」で傍注した。なお資料引用中の「」内は引用者の注記を示す。

(5) 敬称・敬語は原則として使用しなかった。

(6) 記述は出典を明記し、その表記は単行本・雑誌・新聞などは「」、論文などは「」を用い、適宜巻号数・発行者・発行年月日・頁数などを記した。

なお『東洋大学百年史』資料編Ⅰ・Ⅱ上および下から引用した場合は、「資料編Ⅰ上」一〇頁のように略記した。

東洋大学百年史／通史編Ⅱ／目次

第四編 東洋大学の再生

概説

第一章 新制東洋大学の発足……………11

第一節 旧制から新制へ……………11

一 新学制発足までの諸動向……………11

新学制の発足 新制大学への移行過程

二 新制文学部……………19

申請書の提出 文学部の設置認可 学科課程 教員組織 学生の移行および入学者

旧制東洋大学の廃止

三 一般教養課程の設置……………49

設置の目的 一般教養科目 教員組織

第二節 新しい学部学科の創設……………53

一 経済学部一部の設置……………53

設置までの経緯 申請・認可 学科課程 教員組織（昭和二五年度）

経営学科の増設 学科課程 教員組織

二 短期大学部二部の設置……………64

短期大学制度の発足 その後の動向 申請・認可 教育課程 教員組織

昭和二八年度の教育課程 法経専攻の廃止

三 文経学部二部の設置とその改組	77
申請・認可 学科課程 教員組織 文経学部の改組 法経学部の学科課程	
四 教員養成課程の設置	89
戦後の教員養成制度 課程設置申請 教職課程学科目 教育実習 課程設置認可	
課程認定申請 課程の認定 学生誘致運動	
第三節 大学院の創設	107
一 大学院文学研究科の設置	107
旧制度下の大学院 新制大学院の発足 申請・認可 博士課程等の増設 増設認可	
教育課程および教員組織	
二 新制学位制度と学位規則	117
学位規則 旧制学位の取扱	
三 大学院校舎の建築	125
校舎建築の経緯 竣工と概観	
第四節 免許法認定講習と図書館学講座	129
一 免許法認定講習の開設	129
認定講習実施の背景 開設の経緯 認定講習の変遷 担当事務局	
二 図書館学講座の開設	145
開講の経緯 司書・司書補講習の開始 講習の内容 司書教諭講習会の実施	
閉講にいたる経緯	
第二章 学校法人東洋大学の設立と経営問題	156

第一節 大日本獅子吼会の経営参加

一 財政の逼迫と大日本獅子吼会の資金援助

現在地での再建計画 再建計画の大綱 資金計画 新校舎の落成 学債の発行

昭和二四年前期の財政状態 小林啓善との出会い 獅子吼会との交渉

大塚日現への直談判 小林啓善の学長就任 小林啓善の略歴

獅子吼会の資金援助とその条件

156 156

二 罹災建物の改修と資金援助

緊急援助の要請 罹災建物の改修工事

187

第二節 学校法人東洋大学の設立

一 学校法人への組織変更と財団一体化問題

私立学校法の制定 京北との財団一体化問題 京北の財団分離

学校法人東洋大学の設立

192 192

二 新寄附行為による組織と運営

学校法人東洋大学寄附行為 組織（理事会・評議員会）

学校法人設立時の大学財産 法人寄附行為による最初の評議員・役員選任と加藤精神

の学長就任 加藤精神の略歴

203

第三節 大日本獅子吼会との紛争

一 大学経営体制をめぐる対立

紛争の底流 紛争の発端 校友会の決議 教授会等の対応と総辞職 理事総辞職

選考委員会 旧役員の証言 理事・学長の選考 学長・理事の承認

理事長・常務理事決定

219 219

二 訴訟問題へ発展	239
大学側の訴訟提起と獅子吼会側の反対提訴 寄附行為改竄問題 事件の根底	
三 和解の成立と川西学長の就任	246
仲裁委員による和解交渉 代理人による和解交渉 当事者本人による和解交渉	
理事・評議員・監事の総辞職 評議員の選任 学長・理事・役員を選任	
獅子吼会側の対応 獅子吼会側の反論 理事・評議員の総辞職	
理事長・常務理事の交代 和解交渉の再開 和解の成立 新役員の選出	
川西正鑑の略歴 共同声明の発表 寄附行為の改正	
第四節 専教連事件	279
一 財政危機とその対策	279
大学規模の拡大 旧軍用地払下げ問題 財政問題 人件費の二割削減	
二 東洋大学専任教授連合会の結成と学生の動き	289
専任教授連合会の決議 学生の動き 大嶋豊の理事長就任	
三 八教授辞職勧告と事態収拾	294
八教授、一助教授への辞職勧告 学生の動き 校友会対策委員会の調停	
第三章 総合大学をめざして	304
第一節 本館校舎の落成	304
一 学部増設にともなう校舎の建築	304
本館校舎建築の経緯 工事経過と竣工	
二 落成式の挙行と増築工事	305

第二節 学部学科・大学院の増設

一 法学部一、二部の設置

申請・認可 学科課程 教員組織

二 文学部二部の学科増設と経済学部二部の設置

文学部二部の学科増設 学科課程 教員組織 地理・中哲・史学三学科の廃止

経済学部二部の設置 学科課程 教員組織

三 社会学部一、二部の設置

申請・認可 学科課程 教員組織 学生の募集

四 大学院研究科・専攻および経済学部学科の増設

大学院文学研究科英文学専攻の設置 教育課程・教員組織

大学院社会学研究科の設置 教育課程・教員組織 経済学部商学科の設置

学生数の増大 学科課程・教員組織

第三節 附置研究所の設置

一 東洋学研究所

設置の趣旨 組織および運営 紀要の刊行

二 社会学研究所

設置の経緯 組織および所員 各種講座の開催 テレビ教育研究所

三 アジア・アフリカ文化研究所

設置の趣旨 組織・運営 紀要の刊行

362 355 351 351 341 333 319 312 312

四 比較法研究所	366
設置の経緯	
組織および運営 『比較法』の刊行	
五 経済研究所	370
設置の経緯	
組織および運営	
紀要の刊行	
第四節 創立七〇周年・事務組織	374
一 創立七〇周年記念	374
記念事業委員会の設置	
頌徳碑の建立	
冊子等の刊行	
記念事業基金の募集	
記念式典および大学祭の開催	
二 事務局の変遷	381
昭和二四年の事務組織	
事務局の変遷	
『東洋大学広報』の発行	
三 教職員の組合活動	388
教職員組合の結成	
組織・運営	
教員組合および職員組合の結成	
第四章 工学部の誕生	394
第一節 工学部設置の経緯	394
一 理事長大嶋豊の学長就任	394
改正寄附行爲による役員を選任	
大嶋豊の略歴	
理工系技術者の需要	
理工系学部設置構想	
鮎川義介の名譽総長就任	
寄附行爲の一部変更	
鮎川義介の略歴	
二 川越校地の取得	404
土地取得の機縁	
土地の買収	
資金調達	

三 設置申請の却下と再申請	411
当初の計画 理事の交代 教授陣容の整備 認可申請書の提出 申請不認可 名誉総長の辞任 日立製作所の支援 工学部教員の就任	
四 理事の総退陣と新体制	427
困難な資金繰り 大嶋体制の亀裂 理事総辞職 勝承夫、理事長（暫定）に就任およ び佐久間鼎の学長就任 佐久間鼎の略歴 淡沢敬三等の理事就任	
第二節 募金活動の展開	438
一 総合大学建設学債の募集	438
学債募集計画と募集趣意書 学債募集の実際 運営組織 学債募集金額	
二 寄附金募集計画と募金運動	442
工学部建設後援会 工学部建設募金趣意書 募金委員会の結成 募金活動の展開 本格的な募金活動	
第三節 工学部の開設と産学協同教育	452
一 工学部設置認可と開学	452
工学部設置認可 劔木亨弘の理事長就任 寄附行為一部改正と新役員 入学式 開学式・本館落成式 三学科の学科課程 教員組織	
二 産学協同教育	473
産学協同制度の導入 産学協同の理念 産業界との提携関係 工業技術研究会の設立 産学協同教育の実際	
第四節 学科の増設と施設の整備	484

一 土木工学科・建築学科の増設……………	484
届出書の提出 土木工学科・建築学科の学科課程 教員組織	
二 校舎、施設等の整備……………	490
校舎の建設 総合運動場・学生寮等の整備	
第五章 戦後の学生生活……………	493
第一節 学生の自治と活動……………	493
一 学生自治会……………	493
学生自治会の結成 学生自治会規約の改正およびその組織 私学連への参加	
自治会活動・昭和二三―二五年 自治会活動・昭和二六―二九年	
規約の改正―昭和三〇年 自治会活動・昭和三〇―三一年	
全学連加盟・脱退・再加盟 自治会委員総辞職	
規約の改正―昭和三三年 保守派路線に転換 自治会活動・昭和三五―三六年	
自治会活動・昭和三七―三八年 学部代表者会議の発足―中執制移行へ向けて	
二 文化団体連合・体育会……………	511
東洋大学文化団体連合の結成・規約の制定 文連本部の活動	
東洋大学体育会の結成・規約の制定 国土美化運動	
三 新聞学会……………	522
戦後の再刊 戦後の大学新聞『東洋大学新聞』の推移	
四 大学祭……………	528
式典と行事 白山祭 工学祭 体育祭	

第二節 学生生活・福利厚生	532
一 学生寮と福利厚生施設	532
学生の出身地 昭和二〇年代の学生寮 昭和三〇年代の学生寮 福利厚生施設	532
二 奨学金	538
学内の奨学制度 学外の奨学金	538
第三節 学生生活・就職	541
一 学生生活	541
学生数と出身地 学生生活とアルバイト 大学の特徵と学生生活の変化	541
二 就職状況	546
大学の就職対策 就職状況	546

第五編 東洋大学の變貌

概 説

第一章 大学の「大衆化」

第一節 高度經濟成長と社会の変化

一 戦後教育の再編

戦後教育の再検討 大学の量的拡大

二 学生数の増大と学生の意識

学生数の増大 学生の意識・傾向

第二節 經營規模の拡大

一 附属高等学校の設置

姫路高等学校の設置 南部高等学校の設置・廃止 牛久高等学校の設置

二 短期大学部一部の設置・名称変更

一部（昼間部）の設置 觀光科二部の増設 短期大学部から短期大学へ

専攻科の設置 科名の改称 短期大学の位置づけ

三 文学部・法学部および工学部の学科増設

文学部教育学科の増設 法学部經營法学科の増設 工学部情報工学科の増設

四 通信教育部の設置

設置の経緯 通信教育部文学部国文学科の設置 通信教育部法学部法律学科の設置

組織・運営 通信教育部学友会

五 経営学部を設置

563 563 566 570 570 579 585 595 606

設置の経緯 申請・認可 学科課程 教員組織

六 大学院の増設 613

大学院研究科の増設 英文学専攻修士課程 日本史学専攻修士課程

哲学専攻修士課程 社会福祉学専攻修士課程 私法専攻修士課程

私法専攻修士課程 公法専攻修士課程

機械工学・電気工学・応用化学専攻修士課程

土木工学・建築学専攻修士課程、機械工学・電気工学・応用化学専攻修士課程

建築学専攻修士課程 土木工学専攻修士課程

経営学研究科設置にいたる経緯 経営学専攻修士課程

経済学研究科経済学専攻修士課程

第三節 附置研究所・センターの増設 646

一 児童相談室 646

設置の経緯 組織および運営

二 経済研究所・経営研究所 648

経済研究所の設置 経済研究所の設置 経営研究所の設置

三 電子計算機センター 654

設置の経緯 組織および運営

四 工業技術研究所 658

設置の経緯 組織および運営

第四節 施設等の拡充・整備 660

一 白山校舎の拡充 660

二 工学部施設の整備	665
別館の建設	
新七号館の建設	
図書館工学部分館の建設	
屋内体育実技場および講義棟の建設	
学生ホール・食堂棟および運動部合宿所の完成	
五号館の増築および六号館の建設	
第二章 教養課程移転問題と大学紛争	670
第一節 川越移行計画とその挫折	670
一 教育のマスプロ化	670
マスプロ教育の実態	
学生による抗議集会	
二 白山校地の狭隘と川越移行計画	676
学生数の増大と学部の新設	
学部設置認可条件	
千葉雄次郎の理事長就任	
教養課程川越移行計画の発表	
三 川越移行反対運動の激化	685
反対運動の惹起	
川越移行検討委員会規程の制定・発足	
川越移行検討委員会の開催	
反対運動の激化	
四 川越移行計画の中止	695
新理事長および学長の就任	
移行計画の中止	
第二節 学生会館・図書館建設をめぐる紛争	697
一 創立八〇周年記念	697
記念事業準備委員会の発足	
記念事業委員会規程の制定	
記念事業資金の募集	
記念館の建設	
記念出版・記念映画・その他	
記念式典の開催と混乱	

二 学生会館・図書館建設問題……………	706
記念図書館建設計画 昭和三九年二月の「確約書」	
学生の大衆会見要求と機動隊の導入 機動隊導入後の学生側の対応	
教授会・その他の対応 第一回大衆会見 紛争の激化 バリケードの撤去	
紛争の沈静化 新学長および理事長の就任	
三 大学立法と大学の自治……………	735
大学立法公布の背景 大学立法反対声明 学生による反対運動 紛争の激化と収束	
大学改革の動き 記念図書館の建設と落成	
第三節 朝霞移転・学費値上げ問題……………	750
一 朝霞校地の取得と学費値上げ……………	750
三沢元貫の理事長就任 新校地取得の背景 堀秀彦の学長就任	
学生による反対運動 増田六郎の理事長就任	
二 朝霞校地の活用計画……………	760
校地活用計画の発表 研究・教育マスター・プラン委員会等の設置	
朝霞移転計画の一時休止 岡村二一の理事長就任 学費改訂の発表と学生の反対運動	
三 大学改革への取組み……………	770
大学改革試案 寄附行為の改正 学長選挙の実施	
四 移転計画の推進と学生の反対運動……………	781
朝霞土地問題への対応 新学長および理事長の就任 私立学校振興助成法の制定	
学生定員変更届の提出 学生定員変更等の認可 真溪義貫の理事長就任	
学生による移転・学費値上げ反対運動	

第三章 教養課程朝霞移転と研究・教育長期構想

第一節 朝霞移転の実施

一 朝霞校舎の建設

校舎建設の経緯 第一期校舎建設（一号館） 第二期校舎建設（二号館）

799 799 799

二 カリキュラム編成と授業開始

教養課程検討の動き 教養課程検討委員会の討議 教養課程拡大代議員会の審議

四学部（経・法・社・営）一年次生の移行 授業開始

昭和五三年度の二年次移行中止と五四年度の移行状況 朝霞開講時の現況

朝霞教学体制の整備 朝霞移行後の学生の動向

805

第二節 研究・教育長期構想

一 研究・教育長期計画の策定

長期構想について 東洋大学研究・教育長期計画特別委員会の設置

理事長の諮問 KJ法の実施 現状の問題点 大学の将来像

学長の長期構想樹立の要請 再度、東洋大学研究・教育長期計画特別委員会の設置

長期計画特別委員会報告 研究・教育学習長期実行計画委員会の設置

専門部会の設置 教育・研究部会の合意事項 土地・施設部会の合意事項

教授会等への審議要請 財政部会の設置 新校地候補予定地の視察

学長磯村英一の長期構想に関する覚書 西忠雄の学長就任

新理事会の成立と校地問題の決着

831 831

二 白山再開発と朝霞・川越の整備計画

現有三校地の有効利用 朝霞教学体制等検討委員会の設置

863

第四章 三キャンパスの充実と学生生活

第一節 教育研究環境の整備

- 白山五学部一、二、三次朝霞完全移行に向けて 第二部教学体制等検討委員会の設置
- 朝霞校地の整備計画 神作光一の学長就任と新理事会の成立
- 川越校地のマスタープラン素案の作成 朝霞校地のマスタープラン素案の作成
- 白山再開発に向けて 教学審議会の設置 白山再開発の準備

一 創立九〇周年と井上円了記念学術振興基金の設立

- 記念事業計画 甫水会館の建設 井上円了記念学術振興基金

二 教育環境および施設等の整備

- 白山キャンパスの整備 朝霞キャンパスの整備 川越キャンパスの整備
- 厚生施設等の増設・整備

三 大学院・研究所の増設と研究制度等の充実

- 社会福祉学専攻博士後期課程の増設 経済学専攻博士後期課程の増設
- 観光産業研究所の設置 情報科学研究教育センターの設置 国内特別研究員制度
- 博物館学芸員養成課程の設置

第二節 奨学制度・学生生活実態調査

一 奨学制度・就職対策等

- 奨学制度の新設 就職の斡旋・指導

二 学生生活指導・学生生活実態調査

- 学生相談室 学生生活実態調査

913

910

910

892

885

878

878

878

第五章 創立一〇〇周年

第一節 国際交流

一 国際交流への取組み

學術公開交流委員会の設置 「国際學術交流に関する小委員会」の設置

第二次小委員会の発足

二 中国、フランス、アメリカとの學術交流

中国三大学との協定締結 フランス・アルザス学区四大学との協定締結

モンタナ大学との協定締結 国際交流基金規則の制定

第二節 創立一〇〇周年記念事業の展開

一 創立一〇〇周年記念事業計画の立案

創立一〇〇周年記念事業委員会の設置 記念事業計画の立案

記念事業事務局の設置 一〇〇年史編纂委員会の設置

記念論文集編纂委員会の設置 創立一〇〇周年記念事業募金委員会の設置

創立一〇〇周年記念行事実行委員会の設置 卒業生名簿編纂委員会の設置

二 一〇〇周年記念事業の実施

記念映画の制作・「図録 東洋大学一〇〇年」等の刊行

『井上円了選集』等、記念論文集の刊行 朝霞図書館・研究管理棟の建設

『卒業生名簿』の刊行 記念行事の実施 シンボルマークの制定

式典序曲・大学讃歌の作成 「井上円了先生頌徳碑」の移設 記念式典・祝賀会

創立一〇〇周年記念事業決算報告書

919

919

924

931 931

955

三 東洋大学の現況……………

教員数・職員数 学生数・留学生数 土地・建物 学生関係・その他
学校法人東洋大学の組織等 東洋大学アイデンティティ委員会の設置

百年史編纂委員会

〔委員長〕高木宏夫（平成三年七月～平成四年三月）・神作光一（平成四年四月～）

〔委員〕 穂山幹夫・浅野清・浅野裕司・阿部照男・今井光太郎・石田穰二・石田文男・稲木哲郎・上原邦雄・桶谷秀昭・垣内欣哲・神田道子・菅野康雄・小平邦彦・金光賀信雄・竹内郁郎・竹内良夫・田村健二・西村誠・針生清人・廣瀬和喜・藤木三千人・松岡昌吾・松本恒之・宮内敦夫・村松友次・望月武夫・盛岡一夫・八巻節夫・山崎正巳・横田尚義・吉田辰雄・米倉亮三（以上歴代委員）

百年史編集会議

〔専門委員〕寺崎昌男・中野実・西村誠・廣畑一雄〔センター関係〕神作光一・高木宏夫・豊田徳子・保科富士男・松本隆・三浦節夫・山内瑛一（以上歴代委員）

編集長

高木宏夫（平成二年四月～平成六年三月）・神作光一（平成六年四月～）

編集員

豊田徳子・山内瑛一・保科富士男（平成二年七月～平成三年八月）・松本隆（平成二年一月～平成六年三月）

制作

白倉司朗（平成三年一月～平成五年三月）・鈴木經太郎（平成五年四月～）

校正

加賀雅子・坂本文・関川周子・松尾幸子・矢牧住子

草稿執筆者

朝倉輝一・阿部雅博・池田仁子・石川美恵・石川多加子・大竹信行・小金井靖・小暮幸子・酒井出・阪口光太郎・島田茂樹・末広敏昭・鈴木經太郎・立柳聡・田中圭美・寺島利尚・戸田隆・富田善朗・友野清文・中川英子・中根三枝子・三浦節夫・三谷謙一・守山由美子・山田恒夫・吉崎一美・渡辺彰・渡辺悦司

注記

右記の委員等は井上円了記念学術センターに移管されてからのものに限定した。

百年史編纂委員会・編纂室の百周年までの歩みについては、本書の第五編第五章第一節一〜二に、百周年（昭和六二年）の時点の編纂委員会等の各委員名については、『図録 東洋大学二〇〇年』（一九八七年刊）の「あとがき」に記されているので参照されたい。

またこの編集後記に関連するものとして、山内瑛一『東洋大学百年史』編纂の現状について（『井上円了センター年報』第一号、一九九二年三月、一三三〜一四六頁）がある。井上円了記念学術センター設立からの編集の歩みが詳述されているので参照されたい。

東洋大学百年史 通史編II

一九九四年一月二三日 発行

編集 東洋大学創立百年史編纂委員会

東洋大学井上円了記念学術センター

発行 学校法人 東洋大学

〒112 東京都文京区白山五―二八―二〇

電話 〇三(三九四五) 七三二四

印刷 株式会社フクイン

〒112 東京都文京区千石四―一七―一〇

電話 〇三(三九四六) 一五八一

©一九九四 東洋大学

